

シミュレーション教育を取り入れた ESD 教育プログラムの作成

九州大学病院 光学医療診療部

○原芽夢 小柳亜衣 中村あすか 清川良子 清藤美子 山本直子
藤岡審 大塚隆生

【はじめに】

近年、看護実践力を育成するための教育方法として、シミュレーション教育の導入が推奨されている。A 病院内視鏡室では、新規配属看護師に対し、内視鏡の早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（以下、ESD）介助の指導を看護手順とチェックリストを用いて行っていたが、修得するまでの期間には個人差があり、統一された教育方法がなかった。

今回、シミュレーション教育を取り入れた ESD 教育プログラムを作成し、評価したので報告する。

【目的】

ESD 教育プログラム実施による新規配属看護師の技術修得度の向上を図る。

【方法】

対象：内視鏡室に新規配属された看護師 3 名

期間：2019 年 4 月 1 日～11 月 30 日

方法：1. 看護師の到達目標と指導者の実施事項を経時的に明記した ESD 教育プログラムを作成する。

2. ESD 教育プログラムに沿って、配属から約 4 週間後にシミュレーション教育を実施する。

3. シミュレーション教育前後で、指導者がチェックリストを用いて技術修得度を評価する。

評価は A（できる）、B（助言があればできる）、C（できない）の 3 段階で行う。

倫理的配慮：対象者へは研究目的、研究の利益や不利益について口頭で説明し承諾を得た。

【結果】

7 月に ESD 教育プログラムを作成し、8 月と 11 月に指導者 5 名で新規配属看護師 3 名に対し、シミュレーション教育を実施した。シミュレーション教育前後のチェックリストの評価は、A 評価が 75% から 97.8% へ上昇した。

【考察】

新規配属看護師は、治療室内を再現した模擬環境下で ESD 介助を実施し、その経験から自らの不足している知識や技術を具体的に把握することができた。また、デブリーフィングの中で、新規配属看護師が主体的にディスカッションし課題を解決できるように指導者が関わったことで、知識・技術・態度が統合され、「除圧や体位変換ができる」「カニューレシヨンの管理ができる」など、直接看護の項目に改善を認め、技術習得度の向上に繋がったと考える。

【結語】

- ・シミュレーション教育を取り入れた ESD 教育プログラムを作成し、実施した。
- ・シミュレーション教育を行うことで看護実践力を高め、ESD 介助の技術修得度が向上した。

連絡先：福岡県福岡市東区馬出 3 丁目 1 番 1 号

TEL：092-642-5766